

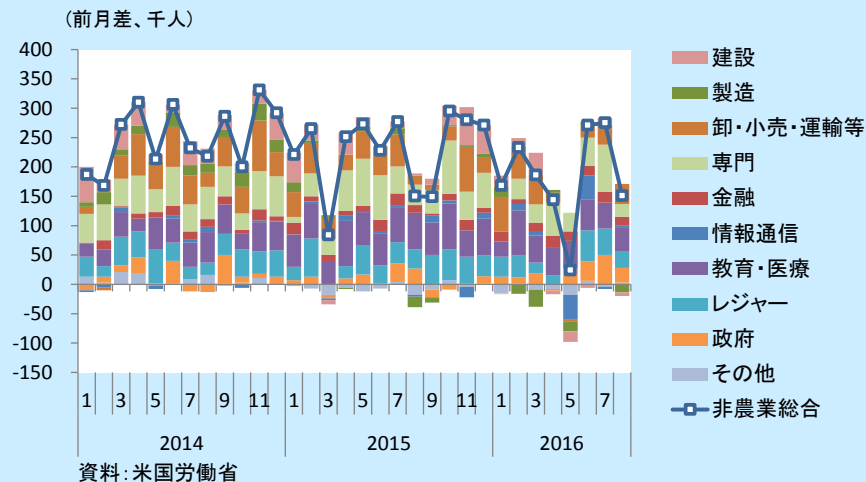
米国：雇用統計（2016年8月）

—良好な雇用環境が継続も、改善ペースは鈍化傾向—

MRI Daily Economic Points

September 5, 2016

図表1 非農業部門雇用者数



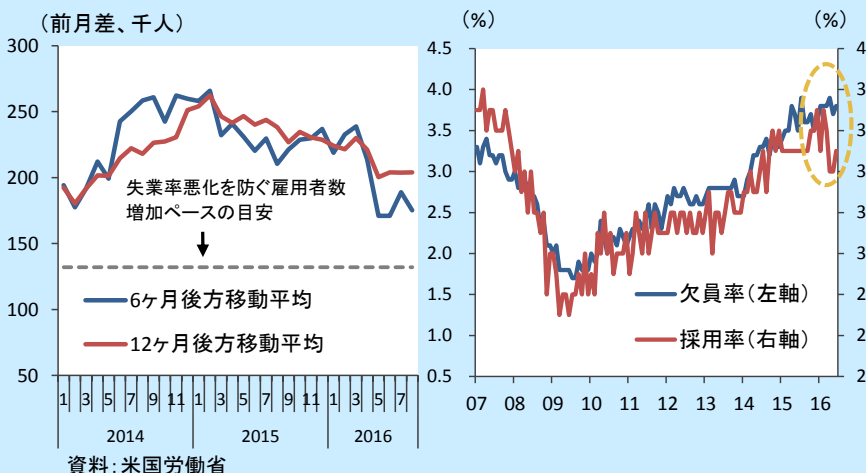
評価ポイント

今回の結果

- 16年8月の非農業部門雇用者数は、前月差+15.1万人増と、前月(同+27.5万人)から増加幅が縮小した。
- 内訳をみると、教育・医療(同+3.9万人)、レジャー(同+2.9万人)で大幅な増加が継続。一方、前月高い伸びとなった専門・ビジネスサービス(同+2.2万人)、政府(同+2.5万人)は増加幅が縮小した。製造業(同▲1.4万人)も3ヶ月ぶりに減少したほか、シェール関連産業を含む鉱業・林業(同▲0.4万人)は、14年10月以降、23ヶ月連続で減少している。
- 8月の失業率は4.9%と前月と変わらず。労働参加率は62.8%と前月と同水準となった。
- 時間当たり平均賃金は前年比+2.4%と前月(同+2.7%)から低下。15年後半以降、同+2.5%前後での推移が続いている。

図表2 雇用者数トレンド

図表3 欠員率・採用率



基調判断と今後の流れ

- 8月は、大幅に増加した6、7月からの反動もあって雇用者数の増加幅が縮小したものの、失業率の悪化につながらない水準(同+13.2万人程度)は上回っており、良好な雇用環境は続いている。
- ただし、雇用者数の増加ペースのトレンドは、15年初をピークにやや鈍化している(図表2)。背景には、①失業率が長期均衡水準まで低下する中、雇用者数が伸びにくくなっているほか、②16年以降は、ドル高や海外経済の減速などにより、製造業・非製造業ともに企業の雇用スタンス(ISM雇用指数)がやや慎重になっていることがある。欠員率や採用率も水準は高いものの、16年以降は横ばい、または低下している(図表3)。
- 先行きも良好な雇用環境は続くと思われ、改善ペースは鈍ると予想する。
- 11月の米大統領選挙に伴う不確実性の上昇や、ドル高による企業利益の減少などにより、雇用の改善ペースが一段と鈍化する可能性には注意が必要である。